

TREE

TOHO

Rendezvous with
Ecology and
Evolution

6 月 18 日 (木) 16:00~17:00 理学部 5(V)号館 2 階 5207 教室

淡水性エビ類の生物地理

: 地理的分布と幼生分散の可能性について

宇佐美 葉 *Yoh USAMI*

東京海洋大学大学院 教務補佐員 博士(海洋科学)



要旨:

ヌマエビ科とテナガエビ科のエビ類は甲殻亜門、軟甲綱に属し、ヌマエビ科は全種が、テナガエビ科はテナガエビ属の全種、スジエビ属の数種などが淡水域に進出している。国内に分布する両科の淡水性エビ類のうち、淡水中で生活史を完結する陸封種を除き、8 割以上が両側回遊型の生活史をもち、成体は河川や用水路の下流域から汽水域にかけて生息する種類が多い。

本州中部域における淡水性エビ類相について、種多様度が高い値を示した地域は琉球列島や四国、九州など西日本の各地域と共通の両側回遊種が分布しており、類似性が認められる。また、南方起源種や死滅回遊種が確認された地域はいずれも半島状の地域であり、幼生分散が黒潮の影響を受けている可能性も高い。ミトコンドリア DNA の COI 領域を対象としたシークエンス解析からも、ハプロタイプの分布に地域特異性が低く、島嶼部を含めた広範囲で遺伝的交流がある種類も検出されている。よって、本州中部域集団の維持には海流により供給された南方起源種や死滅回遊種の幼生が関与している可能性がある。

本講演では演者がこれまでに行ってきた一連の研究の中で明らかとなった、国内における淡水性エビ類の地理的分布様式について、さらに、遺伝的変異性、および幼生期における生態に関する情報から導き出された、幼生分散の可能性について考察してみたい。

尚、セミナー終了後に懇親会もごございますので、そちらにも是非ご参加下さい。

web: <http://wiki.livedoor.jp/treeseminar/>

mail: tree.manager@gmail.com